Multi-Word Unit Profilerの説明

* Boers & Lindstromberg (2009)によると、学習者はこうしたMulti-word Unitにインプット上で気づきにくいということが言われています。

使い方

STEP0: <https://multiwordunitsprofiler.pythonanywhere.com>　にアクセスします。アプリはトップページでほとんどの操作ができるように設計されています。

STEP1: トップページのテキストボックスに分析したい英文を貼り付けます。(例では、以下のページに掲載されているイチロー選手に関する記事を分析します。<https://yanksgoyard.com/2013/11/14/ichiro-suzuki-legend/>　)

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

STEP2: 分析するためのMultiword unitリストを選びます。Version 1.6.0現在は以下の3つのリストでの分析に対応しています（それぞれの説明は以下をご覧ください）。リストは複数選択が可能です。今回は

* A Phrasal Expressions List (Martinez & Schmitt, 2012)
* An Academic Formulas list (Simpson-vlach & Ellis, 2010)
* Lexical Bundles in University language (Biber et al., 2004)

STEP3: “Analyze” (分析)ボタンを押します。（分析に多少時間がかかる場合があります。）処理が終わると分析結果表示されます。

分析結果の説明

* Version 1.6.0(2020/8/16現在)では、2種類のアウトプットが表示されます。
* Annotated textでは、STEP1で入力した英文に含まれるMulti-Word Unitsが頻度別に色付き文字で表示されます。分析はSTEP2で選んだリストを基にされています。

A close up of a newspaper

Description automatically generated

* Table outputでは、分析で特定されたMultiword unitsの頻度情報やExample sentences等が参照出来ます。リストによって収録されている情報が異なるため、Version 1.6.0ではここで表示される情報は、STEP2で選択したリスト毎に異なります。例えば、A Phrasal Expressions List (Martinez & Schmitt, 2012)　には以下の5つの情報が収録されていて充実しています。以下の図にこのA Phrasal Expressions Listを基にしたTable outputの例を示します。 (a) 頻度レベル(1000語から5000語レベルまで), (b) 実際の出現頻度（100万語に何回出現するか）,(c)ジャンル毎の出現傾向,と(d)例文がA Phrasal Expression Listで提供されている情報です。左から2つ目の列Occurrenceは分析したテクストにそのMWUが何回出現するかを示します。

(a)

(b)

(c)

(d)

A screenshot of a cell phone

Description automatically generated

Boers, F., & Lindstromberg, S. (2009). *Optimizing a Lexical Approach to Instructed Second Language Acquisition*. Palgrave Macmillan UK. <https://doi.org/10.1057/9780230245006>